「食と農」の博物館 展示案内

No.36

東京農業大学「食と農」の博物館
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28
TEL.03-5477-4033 FAX.03-3439-6528

開館時間 午前10時～午後5時（4月～11月）
休 館 日 午前10時～午後4時30分（12月～3月）
月曜日（月曜が祝日の場合は火曜）・毎月最終火曜日
大学が定めた日（臨時休業がありますのでご注意ください）

展示期間 2009.4.5～8.30

エゾシカ展
～増えすぎたエゾシカを地域資源に～

1.「エゾシカ学」への途

「エゾシカ展」は、東京農業大学オホーツクキャンパス（北海道網走市）で現在展開中の文部科学省より選定された現代的教育ニーズ取組支援教育プログラム（以降「現代GP」と称す）の「エゾシカによる環境共生と地域産業との連携（以降「エゾシカ学」と称す）」を紹介するものです。ご来館の皆様に「エゾシカ学」の教育プログラムのみならず北海道におけるエゾシカの生態から産業までを広く理解して頂くのがねらいです。

基礎課程2 座学

応用課程1 阿寒見学実習

まず、本学で現代GP「エゾシカ学」を始めた動機から説明いたします。現在、北海道全域にエゾシカが40万頭とも50万頭とも言われるほど生息しております。

特に、オホーツクキャンパスのある網走市をはじめとした北海道東部には、世界自然遺産知床や阿寒国立公園等わが国を代表する風光明美な地域があり、非常に多くのエゾシカが生息しています。しかし、エゾシカによる農作物への被害や山林における樹皮食害、交通事故等経済に大きな負の影響を与えてきました。特に、網走管内のみで見ますとエゾシカによる農作物への被害額は平成19年度で、年間32億円と言われています。このような影響は全道にも広がり、北海道庁ではエゾシカの有害駆除を促進してきましたが、それでもなかなか顕著な効果が挙げられずにいました。鹿は欧州ではハンティングの歴史があり、ジビエ料理として著名です。日本と欧州との文化の違いはあれ、果たして「エゾシカ=害獣」とみなしてしまってもよいのでしょうか？そこで、北海道では生息域が広いエ

エゾシカによる樹皮食い（前田一歩園財団）

ゾシカを「地域資源」として活用できないかというマイナスからプラスへの逆転の発想を持って、平成17年度より北海道庁が中心となってエゾシカ有効活用を推進してきました。またそれ以前にも本キャンパスではエゾシカに関する研究を進めており、北海道内では屈指のエゾシカ研究に関する蓄積がありましたので、平成19年度に現代GPとして応募したところ、オホーツクキャンパスにおいて2件目の採択となったわけです。

本キャンパスは、生物生産、食品科学、アクアバイオ、産業経営の4つの学科を有しています。すなわち動植物の生態や管理、地域資源の加工、流通や企業といった内容を学習する既存のカリキュラムがあります。それらを参考に「エゾシカ学」を一教育プログラムとして学科の枠を外し学科横断的に開設することによって、文系・理系の学科を問わず、エゾシカの「生態→資源→加工→流通」までの一連の流れを学ぶことができるようにしました。また、「エゾシカ学」においては、座学と実習の双方をバランスよく実施することで、より理解を深めることを目指しております。このような事が可能なのも、ひとえに本キャンパスが北海道に位置し、しかも野生エゾシカが生息している世界自然遺産の知床半島や阿寒国立公園等が目と鼻の先にあるからと言えるでしょう。

応用課程1 ソーセージ加工実習

餌場に群がるエゾシカ

そのため、全国的に見ても、この教育プログラムを実施できるのは、オホーツクキャンパスのみとなるわけです。

「エゾシカ学」は、学生や市民に対する教育プログラムとして座学と実習を実施するだけでなく、それと併行してワークショップを開催しており、エゾシカ生産物の有効利用（肉、角、皮）、生体捕獲の技術等について本学教員をはじめ専門家を交えて意見交換を行うことで、北海道におけるエゾシカ産業の構築を目指すものです。

2. 北海道開拓のシンボルから厄介者へ

北海道のエゾシカは、古来より生息している動物の一つで、いわばシンボル的な存在であります。当然、アイヌ民族の生活において、肉をはじめとする皮や腱などを衣類や糸・紐などに加工し、その生命を余すことなく生活の中に取り入れてきました。さらに、明治時代に入ってから、黒田清隆やケプロン他、北海道近代化に重要な役割を果たした人物から一目をおかれ、鹿肉の缶詰等の加工品を生産していました。エゾシカは、狩猟に関する法律の整備においてその中心的存在でした。地域の住民からは身近な動物と位置づけられていたのでしょう。そのようなことから、単に「エゾ」シカという北海道固有の品種のみならず、まさに「シンボル的」な存在の動物といっても過言ではないでしょう。

近年において、狩猟者（ハンター）によるハンティングは伝統的に行われてきたものの、先述したように個体数は増加する一方で、耕地へと餌場を求めて下りてきて、農作物への被害をもたらす、いわば「厄介者」となっています。

3. 養鹿事業の展開

エゾシカ肉は近年のBSE等に代表される食肉に対する消費者の不安がある中で、高タンパク質・低カロリーといった健康志向には適した食材であり、注目されるようになってきました。しかし、野生の動物である以上、供給が不安定でしかも肉質のばらつきは避けられません。そこで、北海道東部を中心として「一時養鹿（ようろく）」事業が行われています。これは、いわゆる「エゾシカの牧場」を意味しますが、牛（乳牛・肉牛）や豚のような家畜の飼育方法とは異なる経営を行っています。その違いは、家畜ならば繁殖して子供を育て、出荷するのですが、エゾシカの場合には野生のエゾシカを冬場の餌の少ない時期に飼料（エサ）でおびき寄せ、それを囲い罠で捕らえ、牧場に運搬し、通常家畜に与える飼料で肥育して順次解体加工するという流れになっています。

生体捕獲施設（追込み）

放牧されたエゾシカ（阿寒シカ牧場）

肥育期間は1年以内と短く、牧場内で繁殖をしません。

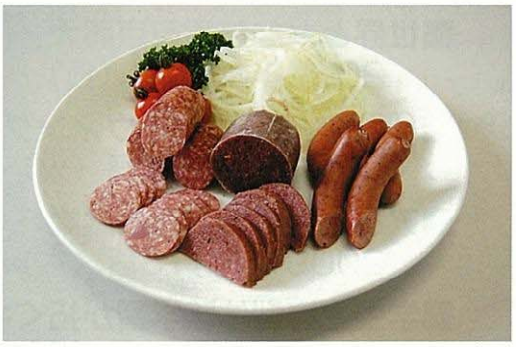
このような手順を踏むことで鹿肉の品質を野性のままよりも一定にさせ、かつ野生動物特有の臭みを少なくして安定提供するわけです。現在、北海道東部には数戸のエゾシカ牧場が存在していますが、これらの多くは牧場を本業としているわけではなく、主たる事業が「建設業」となっています。では、どうして建設業者が全く分野の異なる事業（畜産業）を展開しているのでしょうか。それは、近年の北海道を取り巻く経済環境に大きく関係しているのです。最近、公共事業が多くの人々の批判の対象となっているのは周知の通りです。特に、北海道においては公共事業に対する投資が他の都府県と比べて大きなウェイトを占めていました。しかし世論の批判もあり、全国的に公共事業が少なくなっています。そうしたことから、建設業者は、工事受注が減少し見通しが不透明になってきたことから、異分野業種に進出しようとしているのです。

エゾシカ牧場の主たる製品は「エゾシカ肉」です。当然、解体したときには、肉以外に角や皮、内臓等様々な部位が発生しますが、現在では残念ながらこれらについては角の一部が民芸品に使われている以外ほとんど活用されていません。中国では角や腱は、漢方などに利用されていますが、皮を含めて未利用部位をどのように有効活用するかが求められています。そうした背景において、本キャンパスの「エゾシカ学」では、このような現状を学生に教育するとともに、肉の活用はもちろんのこと未利用部位の有効活用を探り、それをビジネス創造に発展させる工夫をしています。

4. エゾシカ展への誘い

今回の「エゾシカ展」は、おおよそ5カ月に渡る長期の展示となります。当然のことながら、「自然」と一言で言っても動物、植物あるいは自然環境と様々な関心を人々がお持ちであると思います。そこで、本展示においては、その内容をエゾシカの有効活用についての取組み以外に本学オホーツクキャンパス周辺の自然環境にも広げ、世田谷キャンパスや厚木キャンパスの学生、周辺住民の方々に関心を持って頂けるよう企画しております。また、「食と農の博物館」の展示以外に、解説や講演、エゾシカ肉の試食会を行います。さらにオホーツクキャンパスをはじめ世界自然遺産の知床半島へのツアーを企画し、「エゾシカ展」で学んだことを体験してもらいたいと考えています。このように「食と農の博物館」という都内にある施設でありながら、エゾシカや北海道東部の雰囲気をお手で触れて、体感を通じて、より理解を深めて貰えるような展示にしております。エゾシカを通して、様々な角度から環境共生を考える機会にして頂けると幸いです。

パック詰めされたエゾシカ肉



エゾシカ肉を使用した加工品試作

エゾシカ展 ～増えすぎたエゾシカを地域資源に～

関連イベント

■オープンカレッジ

エゾシカエコロジカルツアー
～知床の野生エゾシカの生態を観察し、エゾシカ産業を学ぶツアー～

＜カリキュラム＞

以下の予定は、変更になる場合があります。最新のスケジュールについては、申込締め切り後、送付させていただきます。

平成21年6月21日(日)	12：00頃	羽田発（昼食各自）
	14：00頃	女満別空港
	15：00頃	東京農大オホーツクキャンパスにて講義
	16：00頃	網走市　呼人温泉着　宿泊
6月22日(月)	午　前	越水原生花園・知床自然センター・知床峠
	昼　食	自己負担
	午　後	知床五湖トレッキング
	夕　方	知床　ウトロ温泉着　宿泊
	夕食後	野生動物観察会（約1時間）
6月23日(火)	午　前	知床遊覧（悪天候で欠航の場合は、北方民族博物館またはオホーツク流氷館の見学）
	昼　食	自己負担
	14：00頃	女満別空港発
	16：00頃	羽田空港着（解散）

受　講　料　9万円（テキスト、ツアー代含む）
募集定員　20名（6月4日申込締め切り）
ガイダンス　6月初旬、「食と農」の博物館セミナー室
そ　の　他　申込者が10名に満たない場合は、講座を中止いたします。
また、中止の場合は受講料を全額返金いたします。
※お申込受付　東京農大エクステンションセンター
（電話03-5477-2562、インターネット受付可）
主催：東京農業大学オホーツク実学センター（エゾシカ学）

これからの展示・催事

■世界とつながる東京農大 ～海外姉妹校交流展～
2009年4月5日（日）～5月10日（日）

■(仮)家禽の育種 ～ウィングレス誕生秘話～
2009年5月12日（火）～10月4日（日）

■アフリカの食文化と農業 ～ふれてみようアフリカの食と農～
2009年5月13日（木）～6月7日（日）

■学生主導型体験学習が拓くキャリアデザイン
2009年6月12日（金）～8月2日（日）

PRINTED WITH SOY INK この印刷物は再生紙を使用しております。
2009.4.2.10000